

日本語教科書における「ラ行の撥音化」の扱いについて

福池 秋水

要旨

本研究は、首都圏方言の特徴の一つである「ラ行の撥音化」について整理するとともに、日本語教科書においてどのように扱われているかを調査したものである。ラ行の撥音化とは、ロを除くラ行音が、主にナ行、ダ行、ジャ行の前で、撥音「ン」に変わる現象である。首都圏方言において広く起きていることが先行研究から確認されている。

日本語教材におけるラ行の撥音化の扱いを調査した結果、総合日本語教科書では、初級から中上級までほとんど取り上げられていないことがわかった。また、会話、発音教材ではスクリプトに積極的に取り上げる教材もあるが、体系的な解説が付されているものは少ないことも明らかになった。

【キーワード】 首都圏方言、ラ行の撥音化、日本語教科書、話し言葉

1. はじめに

会話力の育成を目標とする日本語教材において、モデルとなる日本語としては、共通語に近い改まった話し方だけでなく、首都圏で実際に使われている話し言葉、すなわち首都圏方言が取り入れられている。例を挙げれば、『初級日本語 げんき』(The Japan Times)では、初級前半から文法項目に「～なきやいけません」や「Informal Speech」のような話し言葉的な表現を取り上げている。また、『みんなの日本語』(スリーエーネットワーク)も文法項目として「普通形」を取り上げ、話し言葉の際に助詞が脱落し得ることや「～テイル」が「～テル」になるような縮約形の例を挙げている。

一方、首都圏方言のその他の特徴であるラ行の撥音化については、初級の教科書で取り上げられることは少ないようである。そこで本論文では、日本語教材におけ

るラ行の撥音化の取り上げられ方を調査する。また、そのための基礎的な資料として、方言研究の先行文献および漫画作品中での使用状況の観点からラ行の撥音化について整理する。

2. ラ行の撥音化について

2.1 ラ行の撥音化とは

ラ行の撥音化とは、「ワカラナイ」が「ワカンナイ」、「ソレジャ」が「ソソンジャ」になるように、語中、語尾のラ行音が撥音になる音変化である。ラ行の撥音化は東京を含む関東方言で広く見られる。久野編(2018)によれば、「ワカラナイ」を「ワカンナイ」や「ワカンネー」や「ワガンネー」、「ソレデ」を「ソソンデ」というような撥音化の例は東京全域に分布している。

ただし、撥音化の起こる度合いは語によって差があるとも見られる。国立国語研究所がウェブサイト上で公開している『方言文法全国地図』によれば、「足りない」を「タンネー」や「タンナイ」という地点は、東京を含む首都圏から北関東に分布しているが、「蹴らない」を「ケンネー」や「ケンナイ」という地点は東京都内ではなく、より北よりの分布になっている。

2.2 漫画作品におけるラ行の撥音化

首都圏方言に現れるラ行の撥音化のバリエーションを幅広く観察するため、漫画作品中出现するものを紹介する。題材は『きのう何食べた?』(よしながふみ、講談社、2007～連載中)および『海街diary』(吉田秋生、小学館、2007～連載中)を使用する。これらの作品を取り上げる理由は、現代の首都圏を舞台にし、首都圏出身の登場人物がメインキャラクターとなる作品であること、作者自身も東京出身者であることである。それぞれの作品から採取したラ行の撥音化の用例を表1に示す。表1に見られるように、ラ行の撥音化は口を除くラ行の拍の後に[n][d][ɳ]などが続いたときにあらわれ得る現象である。⁽¹⁾ただし、この現象は音環境のみを満たせばあらわれるのではなく、「わかんない」や「かえんの?」のようにラ行語尾を持つ動詞が助詞や助動詞と接続した際や、「かもしれない」「～なきゃならない」「～てくれない?」等の一定の文型で起こりやすいと考えられる。

表 1 漫画作品に見られるラ行の撥音化の種類

用例	撥音化した拍	後に続く拍	作品※(巻-ページ)
急にあした山形行かなきゃなんなくて	ラ	ナ	『海街』 1-17
シッカリしてんね	ル	ネ	『海街』 1-25
忘れたわけじゃあんめえに	ル	メ	『海街』 1-15
もう帰んの？	ル	ノ	『きのう』 1-8
あんた行ってきてくんない？	レ	ナ	『海街』 1-15
そんじゃあとで頼むよ	レ	ジャ	『きのう』 1-21
どんだけつぎ込んだんだか	レ	ダ	『きのう』 3-86

※作品名の『きのう』は『きのう何食べた?』、『海街』は『海街 diary』を指す。

また、同一話者、同一音環境でも発話相手や状況により、撥音化する場合としない場合がある。以下は、『きのう何食べた?』1巻第1話において、主人公の寛が発した3回の「それじゃ／そんじゃ」の例である。

- ①そんじゃ お疲れ様です 失礼します (p. 8 職場で同僚や上司に)
- ②そろそろ切るよ 明日早いんで それじゃおやすみ (p. 19 電話で母親に)
- ③そんじゃあとでたのむよ (p. 21 自宅で同棲相手に)

①と③では撥音化が見られるのに対し、②では見られない。②の電話の場面では、会話内容から、寛が母親に対して心理的な距離を感じていることが描写されており、一般的にカジュアルな話し言葉と言われているラ行の撥音化を起こさないことがその表現の一つになっていると考えられる。このように、ラ行の撥音化は、場面による話し言葉のスタイルの使い分けの指標ともなり得る。

3. 日本語教科書におけるラ行の撥音化の扱い

以上のように、ラ行の撥音化は日本語（首都圏方言）の話し言葉において頻繁に起きる現象である。それでは、日本語教科書において、ラ行の撥音化はどの程度取り上げられているのだろうか。表2は、各教科書におけるラ行の撥音化の扱いを調査し、まとめたものである。なお、表の幅の都合上、教科書名は一部省略している。詳細な書誌情報は稿末を参照されたい。

表 2 日本語教科書におけるラ行の撥音化の扱い

教科書の種類	連番	教科書名	ラ行の撥音化	明示的説明
総合（初級）	1	みんなの日本語 初級Ⅰ	なし	なし
	2	みんなの日本語 初級Ⅱ	なし	なし
	3	初級日本語 げんき Ⅰ	なし	なし
	4	初級日本語 げんき Ⅱ	なし	なし
	5	NEJ	なし	なし
	6	まるごと 入門	なし	なし
	7	まるごと 初級 1	なし	なし
	8	まるごと 初級 2	なし	なし
総合（初中級～中上級）	9	まるごと 初中級	あり※1	なし
	10	まるごと 中級 1	あり※2	なし
	11	まるごと 中級 2	なし	なし
	12	みんなの日本語 中級Ⅰ	なし	なし
	13	みんなの日本語 中級Ⅱ	なし	なし
	14	日本語 5つのとびら 中級編	なし	なし
	15	日本語 5つのとびら 中上級編	なし	なし
	16	INTERMEDIATE JAPANESE	なし	なし
会話・発音	17	日本語生中継 初中級編 1	あり	なし
	18	日本語生中継 初中級編 2	あり	なし
	19	日本語生中継 中～上級編	あり	なし
	20	シャドーイング 日本語を話そう！ 初～中級編	あり	なし
	21	シャドーイング 日本語を話そう！ 中～上級編	あり	なし
	22	マンガで学ぶ日本語会話術	あり	あり
	23	にほんご会話トレーニング	なし	なし
	24	にほんご音読トレーニング	なし	なし
	25	コミュニケーションのための日本語発音レッスン	あり	あり

※1 スクリプトのみに登場する。

※2 資料として掲載された漫画の台詞に登場する。

3.1. 総合教科書

ここでは、文法・文型と4技能（読む、書く、話す、聞く）を取り扱う教科書を総合教科書と呼ぶ。初級および初中級以上のそれぞれ3種の総合教科書を調査した結果、ラ行の撥音化は『まるごと 初中級』『まるごと 中級 1』に各1例登場する

のみであった。いずれも教科書本文ではなく、スクリプトや教科書内に資料として掲載された漫画の生資料に用いられているもので、積極的に提示されているとはいえない。

3.2. 発音教材、会話教材

発音教材や会話教材においては、総合教科書と比較して積極的にラ行の撥音化が取り上げられている。『日本語生中継』は、『初中級編 1』ではスクリプトに 2 例、本冊に 1 例のみだが、『初中級編 2』ではスクリプト 10 例、本冊 2 例、『中～上級編』ではスクリプト 18 例、本冊 3 例と、レベルに応じて徐々に使用例が増えている。また、『初中級編 1』では「わかんない」「かかんない」など「ラ」の撥音化のみだったものが『初中級編 2』では「なにしてんの」「がんばってんな」のような「ル」の撥音化、『中～上級編』では「～かもしんない」「してくんない」という「レ」の撥音化が加わり、バリエーションが徐々に増えている。ただし、『日本語生中継』は本冊の表現のまとめにも「～かもしんない」のような例文が紹介されているものの、ラ行の音が撥音化していることに関する明示的な説明は掲載されていない。

『シャドーイング 日本語を話そう！』も同様に、『初～中級編』『中～上級編』いずれでもラ行の撥音化が頻繁に用いられているが、解説ページでは特に触れられていない。解説ページには「あんだって」について『「あるんだって」のカジュアルな言い方です。』と説明が添えられているが、「あるんだって」→「あんだって」は「ル」の脱落と考えられるため、撥音化の説明にはなっていない。

『漫画で学ぶ日本語会話術』および『コミュニケーションのための日本語発音レッスン』は、いずれも明示的にラ行の撥音化を取り上げ、説明を載せている。『漫画で学ぶ日本語会話術』では「話し言葉の特徴」などとして「ん」を取り上げ、『ここでは、「ん」の形に変化する言い方を紹介します。』として、「の」→「ん」の例に続き、以下のように例文を挙げている。

- 「ら／り／る／れ」→「ん」
- | | |
|-----------------|------------------|
| 例)・わからない人、いる？ | ⇒ わかんない人、いる？ |
| ・人が足りないときは、言って。 | ⇒ 人が足んないときは、言って。 |
| ・いつ帰るの？ | ⇒ いつ帰んの？ |
| ・もう食べられないよ。 | ⇒ もう食べらんないよ。 |
- (『漫画で学ぶ日本語会話術』p. 123 ※原文はルビあり)

『コミュニケーションのための日本語発音レッスン』もほぼ同様の説明を載せている。いずれも、後に続く拍はナ行で統一されていることがわかる。

ん→ら、り、る、れ

- 1) こんなにたくさん食べらんない。
- 2) 朝早く起きらんない。
- 3) お金足んなかったから、買わなかった。
- 4) 何言ったのか、分かんなかった。
- 5) 佐々木さんも来んの？

(『コミュニケーションのための日本語発音レッスン』 p. 37 ※原文はルビあり)

4. 考察

以上、日本語教科書の中でラ行の撥音化がどのように取り上げられているかを調査した。その結果、総合日本語教科書においては、ラ行の撥音化はほとんど取り上げられていないことがわかった。ラ行の撥音化が常に起こる現象ではなく、産出できなくてもコミュニケーション上の支障や著しく不自然な発話を引き起こすおそれが少ない、動詞の活用語尾にかかわるため、特に初級では学習者の混乱を招きかねないことから、妥当な結果であると考ええる。

発音や会話の教材においては、積極的にラ行の撥音化を取り入れるものが多く見られた。自然な首都圏方言に多く触れさせるという目的をもって意図的に取り入れられていると考えられる。一方、明示的な説明があるものは少なかった。これも、ラ行の撥音化という現象の説明の難しさからきていると考えられる。同じ音変化の「テイル」→「テル」、「シテシマウ」→「シチャウ」に比べ、変化が多岐にわたり、なおかつ、一定の音環境の条件を満たせば常に起こるわけではないという点で、中級程度の学習者にわかりやすいように簡潔な説明を付すのは困難である。したがって、『漫画で学ぶ日本語会話術』や『コミュニケーションのための日本語発音レッスン』のように、よく撥音化が起こる語形の例を示す方向性での説明方法が適していると考えられる。

5. 今後の課題

以上、本論文では、日本語教科書におけるラ行の撥音化について調査した結果を述べた。調査対象とする教材が限られたものであったため、全体を概観するものに

はなっていないが、傾向を示すことはできたと考えている。

調査を通じ、ラ行の撥音化が積極的に扱われていないことが明らかになった。4節で述べたように、ラ行の撥音化は産出の必要性が低いと考えられるため、初級段階から取り上げるべきとは考えないが、理解の面での必要性については、なお検討の余地がある。2節で述べたように、実際の首都圏方言においてラ行の撥音化は頻繁に用いられている。今後は、ラ行の撥音化について、音変化が起きる環境や母語話者の使用状況、学習者の聞き取りに与える影響等について研究を進める必要があるのではないだろうか。

注

- (1) 表 1 には「あんめーし」と[m]の前でラ行の撥音化が起きている例があるが、筆者の内省から考えると、稀な音環境であると思われる。

調査対象資料

※連番は表 2 に準じる。

- 1,2 『みんなの日本語 第二版』初級Ⅰ、Ⅱ (2012,2013) スリーエーネットワーク
- 3,4 『初級日本語 げんき』Ⅰ、Ⅱ[第2版] (2011)The Japan Times
- 5 『NEJ : A New Approach to Elementary Japanese <vol.1>テーマで学ぶ基礎日本語』(2012)くろしお出版
- 6~11 『まるごと 日本のことばと文化』入門 / 初級1 / 初級2 / 初中級 / 中級1 / 中級2 (2013~2017) 三修社
- 12,13 『みんなの日本語』中級Ⅰ、Ⅱ (2008,2012) スリーエーネットワーク
- 14,15 『日本語 5つのとびら』中級編、中上級編 (2008) 凡人社
- 16 『AN INTEGRATED APPROACH TO INTERMEDIATE JAPANESE [Revised Edition] 中級の日本語【改訂版】』(2008)The Japan Times
- 17~19 『日本語生中継』初中級編1 / 初中級編2 / 中~上級編
- 20,21 『シャドーイング 日本語を話そう』初~中級編、中~上級編 (2006,2010) くろしお出版
- 22 『マンガで学ぶ日本語会話術』(2006)アルク
- 23 『にほんご会話トレーニング』(2008)アスク出版
- 24 『にほんご音読トレーニング』(2014)アスク出版
- 25 『コミュニケーションのための日本語発音レッスン』(2004)スリーエーネットワーク

参考文献

- 久野マリ子編 (2018)『新東京都言語地図 音韻—平成初期の東京ことば—』國學院大學大学院 久野マリ子研究室

国立国語研究所(1991) 『方言文法全国地図』第2集 下記ウェブサイトより取得
https://www.ninjal.ac.jp/publication/catalogue/gaj_map/map2/ (2018/2/28)

(afukuike@kansaigaidai.ac.jp)